

C-up ワールド

2002 年 10 月号

2002 年 9 月の山行記録

自主山行

丹沢水無川源次郎沢

9 月 1 日

参加者

茨木嘉道 (L)・吉国好道 (SL)・矢沢悦子・
渡部吉実

天候・気温

薄曇り時々晴れ。
平年並みの気温。

コース・行程の概要 (当初)

8:30 小田急渋沢駅北口駅前集合 → 車 →
9:10 戸沢出合 →
9:30 源次郎沢出合 →
10:30 F4 大滝 →
10:40 左俣・右俣分岐 →
11:40 大倉尾根 (赤っぼい岩峰) →
12:00 花立 → 天神尾根 →
13:00 戸沢出合 → 車 →
14:00 渋沢駅

コースの核心・講習のポイント

F4、F5 や F9 でのザイルワークやビレイの、基本に忠実な動作ができるか。

報告者のひとこと感想

当日は小田急線の踏切事故のため、メンバーの集合が大幅に遅れてしまいました。そのため、源次郎沢出合の出発も 1 時 30 分過ぎとなってしまいました。

F1、F2、F3 は格別困難なところはなく、F3 を過ぎ小滝を 2 つ越えしばらく進み右折すると F4・10m の大滝に出ました。滝 (水流) の右岸 (左) のリッジ状の壁に取り付き直上すると、大岩

の下に出ました。右に回りこむと滝の落ち口に出ます。落ち口手前がややぬるぬるしていましたが、残置ハーケンが 1 つありましたので、ハーケンの強度を確認した上、念のため A0 として滝上に出ました。F4 から進み、左俣と別れ右俣に入ると F5・11m 三段の滝です。ザイルを結びビレイして貰い登り始めました。残置ハーケンは 1 つ 1 つハンマーで叩き強度を確認しました。下段は問題なかったのですが、中段がややスタンスが遠く、足が届きません。無理をするとそのまま滑り落ちてしまいそうでしたので、一旦下り、中段のハーケン 1 つにヌンチャクをかけ A0 にして登ると直ぐに上段に出ました。メインザイルでセルフビレイをとった後、メンバーも順次登りました。

F5 をこえ F6 あたりで水流が無くなります。ここからはゴルジュ状の狭い溝の中に連続する涸れ滝が続き、F9・8m のチョックストーンのある涸れ滝に突き当たりました。去年はここで事故が発生していますので改めて気を引き締めます。下から見ると左右の壁とも登れそうに見えましたが、今回は残置ハーケンと残置シュリングのある左壁 (右岸) に取り付きました。勿論、残置ハーケンは 1 つずつハンマーで叩き強度を確認しました。改めてザイルを結びビレイして貰い登り始めると、岩が脆く動くものもありました。中段は壁がやや外傾していて体が外に放り出されそうに感じましたので、ヌンチャクをかけ A0 とし、右上の岩の端の小さなスタンスに右足をのせ体を 90 度ひねるととりあえず体は安定しました。やや脆い岩を騙しながらそのまま直上すると滝上に出ました。ビレイ点となる木はちょっと遠かったのですが、確実にメインザイルからセルフビレイをとることができ、メンバーも速やかに登ることができました。

F9 上から源次郎尾根上の赤っぼい岩峰までは直ぐにつけると思っていたのですが、意外に距離があり、踏み跡らしいのもあちこちにありましたのでかなり

時間をくってしまいました。赤っぼい岩峰につき、沢シューズを履き替えるとうまく終わったなという気になりました。赤っぼい岩峰から大倉尾根上の花立山荘へは5分程で着きました。そのまま天神尾根経由で戸沢へ戻り、渋沢駅に着いた時は夕方5時をまわっていました。予定より大幅に時間がずれ込みましたが、山行の内容自体は満足のいくものだったと思っています。

なお、F5をこえ源次郎尾根へ向かって登っている途中、丁度大倉尾根上にヘリコプターが飛んでいましたので、たまたまこの日は防災の日でしたから、防災のへりかなと思っていたのですが、そうではなく、翌日の新聞を見たところ、大倉尾根上の花立と天神尾根分岐との間で登山者が転倒して負傷したため、救助に出たヘリが飛んでいたということがわかりました。

一般道でも油断できないということを改めて思い知らされました。

報告者 茨木嘉道



講習山行
中級登山科/沢登りを楽しむ会
奥秩父・井戸沢
9月14日～16日

参加者

横川秀樹・新井元治・伊藤幸雄・末木俊之・原直之・渡部吉実・長田幸子・南谷やすえ（本科生）
幡鎌亮一（CU）
向原侑希（同人）
小林英男（講師）
計11名

天候・気温

小雨（最終日午後は本降り）
気温寒い

コース・行程の概要

9月14日 10:20 西武秩父駅出発（タクシー）→ 11:40 荒沢橋ゲート→ 林道歩き→ 13:00 井戸沢入渓地点着（1日目は入渓せず。入渓点手前の広いビバーク適地にてタープ泊。19時就寝）

9月15日 3時起床。5:40 遡行開始 → キンチジミの悪場 → 11:20 榎谷 → 15時頃ビバーク適地着（21時就寝。）

9月16日 5:30起床 7:25出発 → 8:00 奥新左エ門窪出合 → 9:15 F6 2.5m大滝 → 11:35 将監峠と牛王院平の間の稜線登山道着 → 快適な登山道を下山 → 13:05 三之瀬部落に下山 → タクシーにて塩山駅に帰着。

コースの核心・講習のポイント

奥秩父有数の悪溪と言われる大洞川の本流、中級の沢（水平距離6500m、標高差1000m）を遡行する。沢での宿泊。宿泊用具を背負っての重めのザックでの遡行。水量の多い沢。多くの高巻き。

感想

沢で宿泊すること、トイレの無い山歩きというのも実は初めてでした。朝、暗い頃木立に入ってトイレを済ますというのはちょっと不安(?)でした。また中級の沢という事で、4級上以上の手強い滝登りに遭遇する（私の岩のレベルは4級下というところ）不安を抱いていましたが、そういう滝には出遭いませんでした。滝は沢山ありましたが、爆流の滝ばかりで直登はできず、ひたすらへつりと高巻きの連続です。またこの沢は釣り人のために、難しそうなへつり・高巻き箇所には残置ロープ・ザイルが張ってあり、ザイルが登場する場面がほとんどありません。水量が多い沢で、へつりも多少は怖かったです。遡行開始後3時間くらいは、ただへつり・高巻きを繰り返すだけで中級(?)の沢という大変さは感じません。最初は怖さを感じなかったのですが...

まず恐怖を感じたのは、キンチジミの悪場とその手前の滝の高巻きでした。大高巻きです。50mほど登り、足元が切れ落ちた長いトラバースがありました。ロープが張ってあり、カラビナを何回も掛け替えながらの歩きでした。下りも恐怖です。急斜面で、土と小岩が混ざった斜面で、石を簡単に落としてしまいます。そしてさらに恐怖の高巻きがありました。榎谷を通

過した後のF2(10m)の滝の高巻きでしたか？(ちょっと記憶が定かではありません。本によると『右岸のルンゼから高巻き、滝上に出る。』らしいの簡単な記述でしたが、まずルンゼから簡単に登れる様子ではなさそうでした。小林講師がトライして諦め、残置ロープがあったルンゼ左の岩を登りました。脆い岩で、あと3人というところで直径2、30cmくらいの岩数個が剥がれ、後に続くメンバーの足に軽く当り大きな音をたて落ちていきました。岩の上は、急斜面の、枯れた葉などが堆積したフカフカの頼りない足場で、手元の樹木も朽ちかけてつかみ難く、ザックには木の枝が引っ掛かるイヤなところでした。また下降も、30mのザイル2本で60mほど石の崩れ易い急斜面を不安気に懸垂下降したという感じでした。最近岩が剥がれたり、落石に遭遇することが多くあり、気が萎え、帰りたい気分になってしまいました。中級登山科のメニューは自分のレベルじゃ無いな!」とも思いましたが、慣れの問題かもしれませんね...悪路の山行はまだたいして経験していませんから、無理ないのかもかもしれません。

F6・25m大滝の高巻きもザレた急斜面で、途中から人の踏み跡が消える判りにくいものでした。今回の講習は高巻きが多く、宿泊用具を背負った重めのザックのせいもあってか疲れしました。最後のヤブ漕ぎのあたりはエネルギー切れでフラフラでした。夕飯は2泊とも豪華でした。ブリ、タン塩、焼きエビ、ウナギの蒲焼、煮豆、野菜煮、ベーコンなどなど作っていただき、日本酒・ウイスキーなどもたっぷり飲み、楽しい夕べを過ごしました。渡部さんが釣り上げた魚(イワナ?ヤマメ?)もあぶらがのって美味でした。夕べの団欒も勉強になりますね!私的には2つの山用語を覚えました。ルンゼ、チョックストンの滝)また小林講師の「今まで沢で怖い思いをしたことは無い!」というお言葉にも驚きを覚えました。山で遭遇する問題に冷静、的確に対応できる実力はやはり貧弱な私とは違うという感じです。実は私は、2日目朝出発前にいきなり軽いギックリ腰になってしまったのでした。痛み止めの薬、腰に巻くコルセットを貸して頂くなど向原さんにはいろいろお世話になりました。ありがとうございました。なかなかハードな沢で、最後「また来たい!」という元気な感想は皆さんから出なかったですね~。しかし、近年山梨から秩父に抜ける雁坂トンネルが

でき、三峰神社、大滝村の温泉などに何度か山梨側から車で行ったことがあり、一之瀬から笠取山に登ったこともあり、ちょっと馴染みのある地域です。今回その秩父の三峰神社付近から三之瀬に沢・山越えて歩いてしまうなんて、ちょっと感動を覚えました。

6月のカモシカ山行の時も、大月から丹波へ歩けたのは感動ものでした(私は山梨の出身で、大月、丹波も馴染みの地域です。馴染みの地域を長い山歩きでつなぐ山旅はなかなかいい感じです。今年は沢登りなどで、奥秩父の山域にもぼちぼち馴染んできました。そろそろ奥多摩の氷川から山伝いに雲取山、笠取山、雁坂峠、甲武信、乙女高原、甲府の帯那山を経て、石和温泉(実家)の裏山(大蔵経寺山)まで歩くなどやってみたい気分が高まってきました.....

報告者 末木 俊之



講習山行 中級登山科/沢登りを楽しむ会 阿武隈川、南沢と白水沢 9月21日~23日

参加者

新井元治・新井かよ子・矢沢悦子・浅子裕子・坂本由以(本科生)
沢口千鶴子(同人)
佐藤マキ子・松本善行(CU)
工藤寿人(講師)
計9名

講習のポイント

沢での現在地の確認とルートファインディング

感想

今回は2泊とも甲子温泉泊という事で必要な荷物での沢登り。半分位温泉も楽しみに参加しました。大黒屋前を通り阿武隈川本流へと下りて白水沢に入渓する。まず現在地の確認。水量、川床の高さ、方位

まわりの地形などを頭に入れて判断するとの工藤講師のお言葉。その後も何回か地図をひろげる。次々と大小の滝が現われプルージックで確保し次々と登っていく。明るく開けた沢で楽しく、途中ナメも続き、ペース速めで登る。ちょっと息切れ。沢も次第に上流かなと思う頃、3段30mの滝。中段位までフリーで登り、上部傾斜もありプルージックで登る。荒れた感じの沢筋をつめて藪こぎし登山道へ。ホテルには4時には帰ると言っていたので急ぎ足で下山する。

二日目。天気下り坂で昼頃より雨の予報。大黒屋裏手の道を進み、途中で右手下の本谷に下りる。南沢は水量も少なめで10~15mの滝が次々にあらわれ、さすが東北の沢、名前のおりか、赤い石、白い石と変わり飽きる事がない程。今日も緊張しながら楽しい。沢は浮き石が多く岩ももろいので足はけられないよう、手も押すような感じで置くとの指示を受け慎重に登る。南沢最大の滝F9・30m大滝は足場の悪いぐずぐずの岩を登り、中段からザイルで確保してへつりぎみに直登しました。30分の藪こぎで登山道へ、そして甲子山に着いた時雨がポツポツ。思っていたとおりのきれいな沢でした。

報告者：浅子裕子

△△△△△△△△△△△△△△

編集局から

9月は、チャンスメニューの内、ロッククライミングと友達なる会/奥多摩・つづら岩(9/7、8)、沢登りを楽しむ会/丹沢・早戸川原小屋沢(9/28、29)が中止となり、集まった山行原稿が3本のみでした。私が担当した井戸沢の原稿を強引に長めにしてページ数を稼いだ感じになってしまいました。10月、11月とちょっと目新しいロッククライミングのグレンデめぐり講習がありますので、それらの山行原稿依頼を本科生の皆様へ手紙、または電子メールにて発信するつもりです。ロッククライミング講習の原稿はちょっと書き難いかと思われませんが、主に感想をさらっと書いて頂ければいいのではない

かと思います。参加者名簿はこちらで把握しておりますので、細かい記述は無くても結構です。その月の山行報告は、翌月の15日くらいまでに私のところに届くようお願いいたします。ご報告は無名山塾ホームページの山行報告入力フォームで送信されると自動的に編集局に登録されますのでご利用ください。ただし文字化けして送信されるケースもあるようです。丸数字、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳなどのローマ数字などの文字(機種依存文字?)が入力されていると私のパソコンに文字化けして送信されるようです。原稿を頂いて暫くしてから気づくケースもあります。その場合には確認のメールなどを送信します。またインターネットは不安定なネットワークなので、メール等が確実に私のパソコンに届かないケースも発生しているようです。そのため原稿が掲載されなかった場合にはご指摘お願いいたします。翌月号に掲載するようにしたいと思います。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

アドレス

無名山塾 <http://www.sanjc.com>
山塾サポート RXL13656@nifty.ne.jp
Phone 03-3941-3481
Fax 03-3941-3482

iモード

<http://member.nifty.ne.jp./c-up/i.htm>